

令和6年12月3日

## 長野原町議会行政視察報告書

当議会で実施した長野原町議会行政視察について、下記のとおり報告する。

### 記

1. 期 間 令和6年10月15日（火）～16日（水）

2. 場 所 寄居町議会（埼玉県大里郡）  
三芳町議会（埼玉県入間郡）

3. 調査項目

- （1）議会だよりについて（寄居町議会）
- （2）議会におけるデジタル技術の活用について（三芳町議会）

4. 派遣者（計12名）

（1）町議会議員（10名／敬称略）

杉崎能久、湯本宗一、土屋 匡、萩原広美、星河明彦、冨澤重男、入澤信夫、  
黒岩 巧、浅沼克行、牧山 明

（2）議会事務局（2名／敬称略）

野村一義（議会事務局長）、高橋里香（同 書記）

5. 各議員の感想等

別紙のとおり



寄居町議会議場



寄居町議会



寄居町議会



三芳町議会議場



三芳町議会



三芳町議会

1. 視察先
寄居町議会 議会だよりについて
2. 作成者氏名
杉崎能久
3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）
<p>埼玉県寄居町の議会だより「お元気ですか 寄居議会です」が、町村議会広報全国コンクールで数回にわたり最優秀賞を受賞していることは、地域社会における議会活動の透明性と住民とのコミュニケーションを非常に重視している証拠です。特に、議会だよりが連続して高評価を受けている背景には、単なる情報伝達に留まらず、住民参加型の広報としての価値がある点が挙げられます。</p> <p>寄居町の議会だよりは、議員自身が町民に直接取材を行い、彼らの声を紙面に反映させるという工夫を凝らしており、これが多くの住民に議会を身近に感じさせる要因となっています。単なる報告書ではなく、町民の関心を引き付け、参加意識を高めることができているのです。このアプローチが寄居町議会だよりを他の町村の広報と差別化し、全国的な評価を受けている理由の一つです。</p> <p>さらに、寄居町の議会だよりは、視覚的にも分かりやすく、親しみやすい紙面デザインであることも特徴的。寄居町では、情報をわかりやすく提供するために、イラストや写真を効果的に使い、各紙面に多くの住民が登場しています。これにより、住民は自分たちの生活に密接に関連する情報を、身近に感じられるようになっており、議会活動が住民にとって重要なものであることを再確認できる機会を提供しています。</p> <p>また、議会だよりの内容自体も、幅広いテーマにわたっており、町の政策決定の背景や議論の内容を詳しく伝えるだけでなく、町民が実際にどのように関与できるかについての情報も充実しています。これにより、議会は単に政策を決める場ではなく、町民が町の将来に対して積極的に意見を述べ、参加するためのプラットフォームとなっています。</p> <p>寄居町の議会だよりが最優秀賞を複数回受賞したことは、地域社会において「議会広報」という存在が、ただの広報活動以上の役割を果たしていることを示していると言えます。住民とのつながりを強め、民主主義の基礎である参加意識を高めるための重要なツールとして機能しているのです。</p> <p>住民との双方向のコミュニケーションを重視した寄居町の議会の姿勢は素晴らしく、長野原町もそのようにしていかなければなりません。</p>
4. その他（今後の課題等）
『町民に開かれた議会を目指す』という決意を固め、行動に移すことが第一の課題です。

1. 視察先
寄居町議会 議会だよりについて
2. 作成者氏名
湯本 宗一
3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）
<p>埼玉県寄居町議会が年4回発行する議会だより「お元気ですか寄居議会です」の編集について視察してまいりました。議員自らが取材・執筆するとともに、数多くの町民を登場させて誌面のクオリティを上げることで、全国町村議会議長会広報コンクールにおいて何度も日本一に輝いている議会だよりです。</p> <p>寄居町議会は、議会だより作成について明確な編集方針があります。例えば、「日本一クオリティの高い議会だよりを目指し編集する」との基本姿勢のもと、多くの町民による登場を心掛け、町民目線での行政への質問や要望を聞き取ることで町民の“生の声”を紹介しています。編集方針について特に感銘を受けたことは、「読まれない議会だよりに出す意味なし！」という言葉です。議会だよりを発行しても町民の方に読んでいただかなければ何の意味もありません。「議員や議会は何をしているの？」という町民の方から疑問を持たれるのも当然かと思えます。</p> <p>その点、寄居町議会の議会だよりは、誌面に掲載された町民が読者になるなどメリットがあります。これからは“町民参加型の議会だより”の編集に長野原町議会としても挑戦したいです。</p> <p>議会だよりは、議会の内容を町民の皆様にしかりとお伝えする役目があります。加えて、議会だよりを通して町民の皆様からのご意見、お考えを紹介することも必要だと考えています。</p> <p>よりよい長野原町にすべく、行政、議会、そして町民が一丸となって皆が幸せだと感じられる町に皆様と共々に作ってまいりましょう！</p>
4. その他（今後の課題等）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民の皆様が議会だよりを手に取り見て読んでいただけるか。</li> <li>・町民参加型の議会だよりにした場合、どれだけ町民の皆様が協力してくれるだろうか。その前に長野原町議会議員が理解し、積極的に協力、自ら主体的に行動してくれるだろうか。</li> <li>・議員の負担が重くなるのかな？</li> </ul>

1. 視察先
寄居町議会 議会だよりについて
2. 作成者氏名
土屋 匡
3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）
<p>読まれない議会だよりに出す意味なし！ 「お元気ですか寄居議会です」の編集方針とのこと。基本姿勢の「日本一クオリティの高い議会だよりを目指し編集する」のもと、平成20年度より全国町村議長会会報コンクールに出展、平成26年度から最優秀賞を連年受賞。平成30年からは第一位6回、第二位1回と素晴らしい成績を残している。「お元気ですか寄居町議会です」の名称は平成9年の創刊から使用しており、行政広報の名称は「よりいCOLORS」と横文字に変更したが変える予定なしとのこと。読んでいただけるためには表紙が重要と、テーマを決めてシリーズ化し記事とリンクさせている。当町においては各種行事や町のイベント・風景等を表紙として使用し評価をいただいているところだが、工夫も必要かもしれない。住民に参加いただくため多くの住民登場を心掛け、町民の意見等を載せることにより、好意的な意見が聞かれているそうだ。議会本会議の内容や質疑・答弁、一般質問等の結果や報告等が主な当町の議会だよりに比べ、町民目線の広報とも思えた。広報誌であることは当然として、読み物として完成度の高いものを目指してはいるが、いくら綺麗なものを作っても読み物はたくさんあるので読んでもらえないとも。自分が載っていれば読んでくれるし、自分の意見を付度なく書かれていることも大切であり、自分も載りたいという声もあるそうだ。町民のみなさまを取材する担当者を決めお伺いすることも、議会活動として重要な取り組みととらえているとのこと。言葉で伝え・写真で伝えるという編集方針も議会だよりを読んでいただく手段であり、目的は議会を知ってもらうこと。議会改革の一環として取り組みたいと思う。</p>
4. その他（今後の課題等）
<p>明確な編集方針の策定。  編集体制の検討。  編集会議のあり方。</p>

## 1. 視察先

寄居町議会 議会だよりについて

## 2. 作成者氏名

萩原 広美

## 3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）

読まれない議会だよりに出す意味なし！という方針のとおり、町民参加でとてもクオリティの高い議会だよりには驚かされました。

机上に過去の物がおかれていましたが、説明を聞きながらも、つつい手が動き目でおっていました。

どれも素晴らしく、日本一に何回も輝いていると改めて感心いたしました。

- ① わ 私たち議員自らが
- ② か （町民の） 関心あるところに出向き
- ③ り 理路整然と
- ④ や 役に立つ情報を
- ⑤ す 速やかに
- ⑥ い 一緒につくりあげる

議会だよりを目指して、足下にも及びませんが努力できたらと思う視察でした。

## 4. その他（今後の課題等）

現状の私は、与えられた文字数にするのが精一杯ですが、長ければいいという訳ではなく、いかにコンパクトにストレートに伝えることを課題にして行かなければと考えさせられます。

#### 1. 視察先

寄居町議会 議会だよりについて

#### 2. 作成者氏名

星河 明彦

#### 3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）

議会だよりの改革＝議会改革のツールであると痛感しました。議員として何をすべきか？改めて考えさせられました。町民目線で議会だよりを作成する事、町民皆さんの意見を伺う為の取材活動を行なう事など、寄居町の取組には愕然としました。

今回の行政視察のテーマ「議会だより」については、議会だよりの作り方と言うよりも議員活動のあるべき姿を教えてくださいました。政策サイクルの回し方（仕事の仕方）を再認識し、今後の活動に生かして参ります。

#### 4. その他（今後の課題等）

#### 1. 視察先

寄居町議会 議会だよりについて

#### 2. 作成者氏名

富澤 重男

#### 3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）

去る10月15日、寄居町を視察して来ました。当町の広報は直近10年間で最優秀賞6回、優秀賞1回、優良賞他3回と常に上位であります。広報委員は8名おり「読まれない議会だよりは出す意味なし、日本一クオリティの高い議会だよりを目指す」を旗印に編集しております。全てが町民目線、町民主体にて取材、構成、編集を委員が行っております。あらゆる個所に町民を登場させ、写真、談話、意見等を掲載しています。1万3千部発行し配布していますが講読率は判りませんでした。一般質問については当人が原稿執筆、問答については各セクションに確認し要点のみ編集など様々な工夫。以上の活動に取材等に関する費用、時間など委員に負担が生じているため調査費用の支給を検討中との事でした。

#### 4. その他（今後の課題等）

## 1. 視察先

寄居町議会 議会だよりについて

## 2. 作成者氏名

入澤 信夫

## 3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）

寄居町は人口31,894人、世帯数15,049世帯と大きな町です。

議会議員数16名。町名の由来は人が寄る町、人が集う町だそうです。町の花、木、鳥もカタクリ、ヤマザクラ、キジと長野原町とも似ている様に思われます。寄居町では今、学校統合、児童クラブ（学童保育）の2つが議会の視点として話し合えているとの事。町民と共に考える。どこの町村も児童の減少で統合はさけられないとの事。当町では学校統合、学童保育は終わったと思われる。

議会ではなぜに答え、正しく知り、一緒に考える事が大切だと考えている。又、町の未来を決めるのは町民との事。町民の声を出来るだけ乗せて表紙作りをし、中身に連どうした表紙作りにする。町民が見て読みやすくする。議会活動は一般質問でなく活動をどう伝えるか、見える化に変える議会にするとの事。

## 4. その他（今後の課題等）

1. 視察先
寄居町議会 議会だよりについて
2. 作成者氏名
黒岩 巧
3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）
<p>今年度の議会視察研修 1 日目は、「議会だより」についての研修で埼玉県寄居町を訪問した。寄居町議会の「議会だより」は、全国町村議会議長会広報コンクールにおいて、平成 29 年度から令和 5 年度までの 7 回中最優秀賞(第 1 位)6 回・優秀賞(第 2 位)1 回と、圧倒的な成績を誇っている。また、寄居町議会広報公聴特別委員会の鈴木詠子委員長は、全国町村議会議長会主催の町村議会広報研修会の講師を務めている。長野原町議会として、議会だよりの充実を図るために以前から視察したいと思っていたが、今年漸く実現した。</p> <p>10 月 15 日の視察時には、吉澤議長と鈴木委員長ほか 7 名の広報公聴特別委員のみなさんにご対応いただいた。まず、鈴木委員長から「議会だよりの概要」「議会だより編集・発行の流れ」「編集方針」の説明を受け、その後質疑応答・意見交換を行った。</p> <p>「議会だより編集・発行の流れ」では、編集会議を 3 回開催し各回ごとの作業も決まっています、各委員が積極的に関わっていることが分かった。ここに関して、当町はまだまだだと思いが、十分に改善できると感じた。改善のためにはどうしたらいいのか、広報委員会の委員だけでなく、全議員で取り組んでゆく必要があると考える。</p> <p>「編集方針」の「読まれない議会だよりに出す意味なし！」は、正にその通りだと思う。1 人でも多くの町民に読んでもらうために、編集方針の★基本姿勢★町民参加★政策サイクル★優先順位★言葉で伝える★写真で伝える、の 6 項目がしっかり決まっています、その方針に則り議会だよりを発行する。ここも大いに参考にしたいと思う。</p> <p>当町の各議員からは活発に質問が出て、議会だよりを良いものにしていきたいという意欲を感じた。寄居町と同じような広報誌が、一朝一夕にはできるわけではないが、今回の視察研修をきっかけに町民のみなさんが手に取って読みたくなるような議会だよりを発行できるよう、議員が共通認識を持ち取り組んでいかなければならないという思いを強くした。</p> <p>長野原町議会は 3～4 年前から議会改革に取り組んでいる。コロナ禍の影響もあり思うようには進んでいないが、ここ 3 年は議会改革の先進地を視察してきた。寄居町の広報公聴特別委員会の鈴木委員長が「議会だよりの充実はずと議会改革に繋がる。」と仰っていた。議員一丸となり、より良い議会だよりを作ると共に、議会改革を進めていきたいと思う。</p>
4. その他（今後の課題等）
<p>長野原町議会の議会だよりも、10 年前に比べると劇的に変わってきていて、読みやすい・良いという意見も少なからずいただいている。高齢化率が 40%を超えている当町では、時代の先端に行くような尖がった紙面の議会だよりがいいのか、今の形を踏襲して町民参加や内容の充実を図った方がいいのか、両方を融合させたハイブリッドのものがいいのか、議論の余地というより、しっかり議論しなければならないと思う。そのうえで、他のまねではない長野原町に合った長野原町民のための議会だよりを作り上げていきたいと思う。</p>

1. 視察先
寄居町議会 議会だよりについて
2. 作成者氏名
浅沼 克行
3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）
<p>寄居町は、都心より70km、人口3万2千人、世帯数1万5千世帯の町で、令和6年度の当初予算は一般会計135億円、議員定数16名の町です。</p> <p>近年「ガリガリくん」で有名な赤城乳業が進出して町の活性化に役立っています。</p> <p>何よりも訪問の目的は、日本一の「議会だより」づくりの町であり、平成24年より令和5年度まで6回最優秀賞を受賞というすばらしい成績を残しています。長野原町議会としてもその一端を知るべく全議員が耳を皿にして説明に聞き入りました。</p> <p>結果としては8名の広報委員会の方々の努力につきるのではないかと感じました。まず、「日本一を目指そう」といった大目標。そして「読まれない議会だよりは出す必要なし」といったスローガンに従っての広報づくりを、主役を議員から町民へと変え、町民主体に努め審議結果だけでなく審議の経過も伝え、町民の関心の高いと思われる議案に優先順位をつけ掲載する。自分達の撮った写真を多く取り入れる等々、私たちが勉強することばかりだと感じました。今後は出来ることを精査して、より良い長野原町の「議会だより」を作っていかなければと思っています。</p>
4. その他（今後の課題等）

1. 視察先
寄居町議会 議会だよりについて
2. 作成者氏名
牧山 明
3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）
<p>寄居町は、高崎から関越自動車道で30分、JR八高線で40分荒川が秩父山地から関東平野に流れ出す所であり、人口はおよそ3万2千人の町で第一次産業4.1%、第二次産業32.3%、第三次産業63.5%であるという。鉄道はJR八高線、秩父鉄道、東武東上線が乗り入れている。</p> <p>今回の視察の目的は、全国町村議会議長会広報コンクールで過去6回最優秀賞を受賞している寄居町議会の議会広報広聴特別委員会の活動、議会広報編集の方針、手法について学ぶことにあった。</p> <p>編集方針の冒頭に読まれない議会だよりに出す意味なし！と書かれていて、日本一クオリティの高い議会だよりを目指している。特別委員会の鈴木委員長の言葉によれば、議会だよりで全国一を目指す事が議会改革につながっていると言う。町民の参加、政策サイクル優先順位、言葉で伝える、写真で伝えるという広報研修会で何度も講師の先生から学んだポイントを全て着実に実行しているところがすばらしい。当然の事ながら特別委員会の委員や他の議員の活動量も多く、特別委員会の委員長、副委員長は編集月は15～20日、そのために活動をするというからすごい。最近でこそ、一般質問の原稿は質問した議員が編集するように長野原町議会も変わってきたが、議会だよりの紙面の編集をすべて議員の手で行うまでにはそうとう勉強して努力しなければならないと感じた。いただいた資料の中の寄居町の観光ガイドブックを開いてみると名勝や史跡、名水も多く、みかんが古くから栽培されていて当地の名物になっている。視察とは別に訪れてみたいと思った。</p>
4. その他（今後の課題等）

1. 視察先
三芳町議会 議会におけるデジタル技術の活用について
2. 作成者氏名
杉崎能久
3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）
<p>埼玉県三芳町議会は、オンライン会議の開催や議会のライブ配信、そして資料のペーパーレス化など、積極的にデジタル技術を導入しています。これにより、議会運営にさまざまなメリットがもたらされています。</p> <p>議会のライブ配信は、これまで物理的な場所に制約されていた議会の傍聴が、YouTube を通じてどこからでも視聴可能となり、町民は自宅や職場から気軽に議会の様子を確認できるようになっています。これにより、町民が議会に対して持つ距離感が縮まり、より多くの人々が町政に関心を持つようになったのではないかなと思います。より広範な層への情報提供が可能になった、ということです。</p> <p>さらに、資料のペーパーレス化は、議会運営の効率性を大きく向上させています。これまでのように大量の紙資料を印刷・配布する手間が削減され、資料をタブレットやパソコン上で管理することで、迅速なアクセスや情報の検索が可能になりました。これにより、議員は必要な情報を瞬時に取り出し、会議中でも柔軟に対応できるようになります。また、資料の電子化は環境負荷の軽減にも寄与し、紙の使用量削減によりコスト削減にもつながっています。議会全体の運営にかかる費用も削減でき、財政的な負担を軽減する効果が期待できます。</p> <p>オンラインでの委員会開催は、議員や職員にとっての時間的な柔軟性を提供してくれます。役場まで出向く必要がないため、地理的制約や移動時間を考慮することなく、効率的に会議を進行させることができます。特に、緊急の事態や遠方からの参加が求められる場合にも、このオンライン化によって迅速に対応できるという利点があります。コロナ禍のようなパンデミック時には、このデジタル技術が議会の持続的な運営に不可欠な役割を果たすでしょう。</p> <p>こうしたデジタル技術の導入は、議会活動における効率性と透明性の向上をもたらし、住民参加を促進する重要なツールとなります。町民がより積極的に自らの町の政策に関わり、意見を述べる機会が増えることが期待されます。三芳町議会の取り組みは、町民に対しての情報提供や参加の機会を広げるという意味で、長野原町にとってロールモデルになると思います。</p>
4. その他（今後の課題等）
<p>パソコンとその周辺機器や通信環境の整備、アプリの使用法は慣れれば誰でもできる。寄居町同様『デジタル技術を活用するんだ』という決意を固めることが重要であり課題。</p>

1. 視察先
三芳町議会 議会におけるデジタル技術の活用について
2. 作成者氏名
湯本 宗一
3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）
<p>埼玉県三芳町議会が議会改革を推進するために実施したデジタル技術の活用について視察してまいりました。</p> <p>デジタル活用にあたっては、使いこなせる議員がいる一方で、不慣れな議員は取り残されるなどの紆余曲折あったようです。しかし、現在においてはタブレット端末の使用、オンライン会議、モニター会議など活発にデジタルを活用しています。さらには、生産性の向上が図られるとともに、ペーパーレス化により無駄な紙を使用なくなり、予算削減にもつながっています。</p> <p>私はデジタルと聞いただけで体が固まってしまうほど機械音痴です。長野原町も議会改革の一環として、今年度からタブレット端末が全議員分導入しました。デジタルの活用にあたって最初は本当に苦労しましたが、とにかく「習うより慣れろ！」のひと言に尽きるようです。長野原町議会においてもタブレット端末導入に伴い、これから様々な問題や課題、困難に直面するかと思えます。</p> <p>時代の流れでデジタル技術に頼らざるを得ないし、避けて通れない現実があります。長野原町議会としても、現在のタブレット端末をしっかりと使いこなせるよう精進して参りたいと思います。</p>
4. その他（今後の課題等）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末を議員全員が使いこなせるかどうか。</li> <li>・タブレット端末を使用するにあたり個人差が生じてしまう。</li> <li>・最低限の基礎知識と基本操作、そして徐々に応用操作ができるよう勉強会、講習会など必要に応じて開催できないだろうか。</li> <li>・長時間の使用で充電切れになるおそれがある。心配です。</li> </ul>

1. 視察先
三芳町議会 議会におけるデジタル技術の活用について
2. 作成者氏名
土屋 匡
3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）
<p>三芳町は埼玉県南部に位置し、首都圏まで30キロ圏内という恵まれた交通環境を背景に各種流通関係の拠点施設が立地する活気ある町であり、雑木林も点在し都心から最も近い緑のオアシスとも呼ばれる気持ちの良い町でもある。人口は約3万8千人、減少傾向にあるそうだ。 議会議員15名中8名が女性議員、比率は町村議会では日本一。女性目線での提案等は素晴らしいと評価されているとのこと。</p> <p>議会におけるデジタル化のきっかけは、議会改革の一環として平成22年にスタートし、平成27年から会議資料等の閲覧を目的としたタブレット機器等の議場への持ち込みが許可。 令和3年12月定例会よりペーパーレス化を視野にタブレットを導入し、基本的に紙ベースでの配布はしない仕組み。当町においても、昨年12月定例議会からタブレット端末を導入したところであるが予算書は紙ベースでの配布をおこなっている。導入済の他町村でも同様の対応が多い様子であるが、三芳町議会ではPC等を持ち込み可能として複数のデジタル機器を使用しペーパーレスとしている。議会委員会条例の改正等課題はあるが興味深い取り組みと思える。 また、令和3年3月より発災時にオンラインによる委員会の開催が可能となったそうだ。Zoomを利用したオンライン会議は、各委員会を含めコロナ下においてかなりの回数が開催された。有事にはかなり有効なシステムと思われた。使いこなすことや発言方法等にも慣れが必要とのことではあるが、非常時以外にも活用できるシステムであると思う。 当町においても、議会のデジタル化により資料の作成や配布といった事務局の負担軽減、ペーパーレスによる経費の削減に加え、資料の整理・保管等スムーズな活用が推進できればと考える。</p>
4. その他（今後の課題等）
<p>議会デジタル化の定着と活用。 長野原町にとって有効な議会改革の推進。</p>

## 1. 視察先

三芳町議会 議会におけるデジタル技術の活用について

## 2. 作成者氏名

萩原 広美

## 3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）

R3年12月～完全ペーパーレスで、タブレットやパソコンを駆使して議会が行われているということで、会議について行けるか不安ですが、要は慣れるしかないということで難題山積みです。

15名の議員のうち女性議員が8名だそうです。

議長さんも女性で、てきぱきとこなしている姿に感銘を受けました。とてもやわらかな空気がながれている感じがしました。時間が少なくあまりお話も聞けなかったのですが、女性の多い議会は想像できません。

少し立ち話をしてお話を伺えました。女性目線というお話の中で一般質問等がかぶってしまうことがないでしょうかの問いに、それぞれ得意分野があり今まで困ったことはないそうです。

以前は農家の方や自営の方もいたようですが、働き盛りの男の人のなり手が少なくなっているのが現状のようです。

## 4. その他（今後の課題等）

当町にも2人以上の女性議員がでてくる事ができたら、又違った議会になるのではないのでしょうか。又議員のなり手不足は他人事ではないと感じました。

1. 視察先

三芳町議会 議会におけるデジタル技術の活用について

2. 作成者氏名

星河 明彦

3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）

議会のデジタル化は当町も、タブレットを導入し大量の用紙削減でコスト・環境問題に貢献できました。次は情報技術を活用して情報の共有化や見える化へと進めて行きます。

現在のタブレット端末は Wi-Fi が無いと使用出来ません、何処にいても情報収集・発信が出来る事が災害対策や意思決定のスピードアップに繋がります、改善を進めたいと思います。

議場内へのモニター設置を行い、議会の見える化を進めたいと思います。折角議会の傍聴に足を運んで頂いても、何を議論しているのか分かりにくいのが現状です。一人でも多くの方が傍聴に来ていただけるように進めて参ります。

4. その他（今後の課題等）

1. 視察先

三芳町議会 議会におけるデジタル技術の活用について

2. 作成者氏名

富澤 重男

3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）

三芳町議会の特色（人口38千人、予算額150億）

イ) 委員会のオンライン化

ロ) タブレットの導入にてペーパーレス化

ハ) 議会改革特別委員会設置（後に推進特別委員会）

ニ) 定数削減、反問権、政策サポーター、議会だよりモニター

ホ) ふれあい座談会、議会広報常任委員会、議案毎の賛否公開、  
教育長による教育方針演説、議会報告会開催 etc

感想

交付税未交付の町であるが、議員定数15名にて活発に活動している様を感じる。

活かすとすべき点

政策サポーター制及びモニター制などは、町民の生の声意見が聞けるのでは！

4. その他（今後の課題等）

1. 視察先
三芳町議会 議会におけるデジタル技術の活用について
2. 作成者氏名
入澤 信夫
3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）
<p>町議15名中8名が女性議員というめずらしい議員数だと思われる。H19年頃から議会改革としてデジタル導入の提出がなされ、22年頃よりタブレットの持ち込み、H27年になりタブレットの持ち込みが多くなり、令和3年ペーパーレス化にと約10年で完全ペーパーレス化と中々大変だったそうで、今では3台も使っている人もいるとの事。年輩議員はやっぱり時間がかかり大変との事だったそうです。</p> <p>又三芳町ではオンラインでも何回かやっているが、回数をやらないと中々うまくいかないとの事、準備も大変との事。</p> <p>又町で力を入れているのが武蔵野の落葉堆肥農法で、世界農業遺産に認定されているさつまいも作りなどで、町の農業の担い手や住民一体となって、この農業に力を入れて盛り上げているとの事でした。</p>
4. その他（今後の課題等）

1. 視察先
三芳町議会 議会におけるデジタル技術の活用について
2. 作成者氏名
黒岩 巧
3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）
<p>今年度の議会視察研修 2 日目は、「議会におけるデジタル技術の活用」について研修するために、埼玉県三芳町を訪問した。三芳町議会はデジタル技術を積極的に導入しており、全国町村議会議長会が発行している「町村議会デジタル技術活用事例集」に【デジタル化とライブ配信で「開かれた議会」をめざす】というタイトルで事例が紹介されている。</p> <p>10 月 16 日の視察時には、内藤美佐子議長と議会運営委員会本名副委員長・細田委員の 3 名にご対応いただいた。三芳町議会を訪問して驚いたのが女性議員の多さだ。定数 15 名のうち半数以上の 8 名が女性だ。内藤議長にお聞きしたところ、三芳町ではかなり以前から女性議員が多いとのことだった。女性議員が 1 人の長野原町とは大きな違いだ。</p> <p>三芳町議会は住民に「開かれた議会」をめざし、平成 22 年に議会基本条例と議員政治倫理条例を制定し、議会改革を進めてきた。その後は改革の一環としてデジタル化に舵を切る。議員の私物のタブレットやスマートフォンの本会議・委員会への持ち込みについて条件を定めて許可した。執行部も含めたタブレット端末の導入は令和 3 年 3 月。完全ペーパーレス化を視野に、ペーパーレス会議システム「moreNOTE」も導入している。</p> <p>他に「開かれた議会」として、YouTube チャンネルを開設し本会議の録画配信を行っていたが、協議の結果現在ではライブ配信をスタートさせている。また、音声認識システム「ログミーツ」や検索システム「Discuss Net」も導入している。</p> <p>令和 3 年 3 月に委員会条例の一部を改正した。この改正および「moreNOTE」の導入により  ① ペーパーレス会議②ファイルの共有③オンライン会議の 3 つが可能となった。</p> <p>長野原町議会では、令和 2 年 12 月定例会から YouTube で一般質問の録画配信を行っている。タブレット端末は令和 5 年 12 月定例会で試験的に導入後今年 6 月定例会から本格的に導入している。タブレット端末の運用については、三芳町もまだ試行錯誤的などころもあるようで、三芳町と比べても概ね上手くいっていると感じた。内藤議長は、度々「慣れ」と仰っていたが、新しいものを使いこなしていくうえで、確かに「慣れ」ることが一番だと思う。オンライン会議やその他のデジタル機器の導入に関しては、当議会はまだまだこれからで、議会改革と共に議員全員で取り組んでいかなければならないと思っている。</p>
4. その他（今後の課題等）
<p>タブレット端末を導入し、紙の使用量削減等一定の効果は出ていると思う。しかし今後はデジタル化・IT 化の先にある DX を目指して行くにはどうしたらよいか、専門家をお呼びして勉強会を開き、議員のみならず町執行部とも一緒に新しいことに取り組んでゆく必要があると感じている。</p>

1. 視察先
三芳町議会 議会におけるデジタル技術の活用について
2. 作成者氏名
浅沼 克行
3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）
<p>三芳町は、国からの交付税を受けない不交付団体です。都心に近くベッドタウン化しているそうです。</p> <p>15名の議員定数で8名が女性で、女性比率は日本一です。今回は議会におけるデジタル技術の活用についての研修です。町配付のタブレットの他に個人持ちのものも利用しており、完全ペーパーレス化しています。（予算書、決算書も）説明の議員の方々もタブレットに慣れることが必要であると話していましたが、その一言につきると思います。</p> <p>そして議会だよりモニターを設置して、町民からの声を聞くようにしており、モニターの中から議員のなり手も増えている良い状況です。</p> <p>当町も今年度よりタブレットを導入しているが徐々に利活用も増えている状態ですが、私もタブレットに慣れながら今の状況を進めていけば自然とペーパーレス化が進んでいくものと考えます。</p> <p>最後に寄居町、三芳町両議会の皆様にお世話になりましたことに感謝を申し上げます。</p>
4. その他（今後の課題等）

1. 視察先
三芳町議会 議会におけるデジタル技術の活用について
2. 作成者氏名
牧山 明
3. 視察実施結果に対する所感、意見等（感じたこと、今後の議会に生かすべき点等）
<p>2日目に訪れた東京都心から30km圏内にある三芳町は、人口38,000人。武蔵野に江戸時代から伝わる落葉堆肥農法が世界農業遺産に認定された地域内にある町でベニアカというさつまいもが特産である。</p> <p>視察の目的は議会のIT化、デジタル技術の活用について学ぶ事であった。三芳町議会を訪れ最初に議員15名中、女性が8名いること、三芳町は地方交付税がこない、不交付団体であることを聞いて、長野原町とは大きな違いを感じた。議会改革は平成19年から取り組んでいて、タブレットのほかに議場にパソコンの持ち込みも可としていることで、一度に複数の資料を見ながら会議にのぞめるようになっている。議員それぞれが2～3台の端末を使って完全ペーパーレス化を目指している。当然、議員活動にIT化に必要な経費もかかるので長野原町議会には無い政務活動費年間6万円が支給されていて、その収支と町への返還額も公表されていた。オンライン会議の開催で、感染症のまんえん防止や大規模な災害発生等で招集場所への委員の参集が困難な場合でも委員会の開催ができるように条例も改正している。</p> <p>長野原町議会はようやく改革を始めたところで、これからいろいろな面で試行錯誤をくりかえしながら、どのようにするのが長野原町議会をより良くしていけるか考えなければならない。</p>
4. その他（今後の課題等）